

## 『深密解脫經』の「如実修行」について

島津現淳

『深密解脫經』の訳者、菩提流支 Bodhiśīla は、西暦五〇八年に北印度から洛陽に来て、多くの経論の翻訳に従事したといわれるのであるが、特に世親の『十地経論』を訳出して、後世、地論宗の祖と仰がれ、また世親の『浄土論』を伝訳し、曇鸞に『観無量寿経』を授けたとも伝えられるなどあって、浄土教においても大いに尊崇されている。この流支の訳出せる世親の『浄土論』の中には、ここで問題とする「如実修行」という句も、「欲如実修行相応故」、「欲如実修行奢摩他故」、「欲如実修行毗婆舍那故」、「如実修行常作仏事」、「遍示令解如実修行」とあって、合計五回見出され、浄土教の流れをくむものにとつては重要な用語の一つであるともいえるであろう。

ところで、世親には、いわゆる「釈経論」の述作があるが、その中、上述の『浄土論』などの流支訳出の諸釈経論の中に見られる「如実修行」については、すでに詳細に論じられているのであるが（桜部建『仏教語の研究』九九頁以下）、『深

密解脫經』においても「如実修行」という句は、流支の好んで用いた訳語の一つであるとさえ思われる。本稿では、『深密解脫經』（〔深〕）に見られる「如実修行」について、異訳の玄奘訳『解深密經』（〔解〕）、真谛訳『仏說解節經』（〔節〕）、求那跋陀羅訳『相統解脫地波羅蜜義經』・『相統解脫如来所作随順处了義經』（〔相〕）、並びに西藏訳（〔西〕）を対照して、その意味内容を検討したい。しかし、周知の如く、〔深〕〔解〕〔西〕は全訳であるから、その対応箇所と比較ができるが、〔節〕〔相〕は全訳ではないから、訳出されている部分のみの対応しかできないことはいうまでもない。

さて、〔深〕においては、「如実」や「修行」という訳語も、他の訳に比べてより多く用いられているのであり、それらの訳語と他の諸訳との比較検討や意味内容の吟味も重要な問題であるが、ここでは、「如実修行」という一連の句について、諸訳を比較検討し、その意味を吟味したいと思う。

ところで、この「如実修行」は、異訳にはなく、〔深〕の

みに見られる特徴のある用語であり、この他、「如実行」「実行」などという省略ないし簡約形と思われるものも見られるが、文字通り「如実修行」という四字一連の句は、「深」の「第四品」一回、「第五品」一回、「第八品」一回、「第九品の二」「五回、「第十品の二」「七回、「第十一品」三回の合計、十八回現われている。それらを他の諸訳の該当箇所と比較すると、必ずしも一一の語句の対応関係が明確でないものもあるが、対応できる場合は、諸訳の比較によって、その意味内容もおのずから明らかになるであろう。さらにまた、西蔵訳から原語を推定することも可能であり、E. Lamotte もその著書『SAMADHINIRMOCCANA SŪTRA』の中で、かなり梵語を註記しているのであるが、ここでは、「深」の「如実修行」を検討するに当って、西蔵訳をはじめ他の諸訳を比較して、その意味内容を理解する資とするにとどめたい。なお、用語の理解には、その語句の前後の関係の吟味が必要であるが、紙数の関係上、その多くを割愛せざるを得ない。

(一) *rnal 'byor* (瑜伽) に関するもの

- (1) 「深」復次、須菩提、如実修行比丘、如実知三陰如第一義諦法無我。(『大正』第十六卷六六八c. 一一～一二)
- 「解」復次、善現、修三觀行、苾芻、通達一蘊真如勝義法無我性已。(六九二a三～四)

「節」復次、須菩提、修行比丘、若已通達一陰真如法無我

『深密解脱經』の「如実修行」について(鳥津)

(七一四 a 二九～b 二)

【西】 *rab 'byor gshan yai dge ston rnal 'byor spyod pa ni phun po gcig gi de bshin nid don dam pahi chos bdag med pa rab tu rtogs nas* (『影印北京版』第29卷 7a 4~5).

ここでは、「深」如実修行、「解」修觀行、「節」修行、【西】*rnal 'byor spyod pa* (瑜伽行) という語句の対応関係は明確である。

(2) 「深」(a)善哉善哉、弥勒、汝依三如実修行故、問三满足清淨菩薩行相。(b)弥勒、汝於三如実修行法中三善学具足。是故問三我如实行法。(六七九c 二〇～二二三)

「解」(a)善哉善哉、善男子、汝今善能依三止円満最極清淨妙瑜伽道、請三問如来。(b)汝於三瑜伽已得三決定最極善巧。(七〇三 a 一〇～一一)

【西】 (a) *byams pa khyod kyis rnal 'byor gyi lam yons su rtdogs pa dan / gin tu yons su dag pa las brtsams nas hdi la sie / (b) rnal 'byor la gin tu nman par nes gin mkhas pas de bshin gcegs pa la dri ba dris pa legs so legs so* (19 a 4~5)

ここでは、「深」(a)如実修行(b)如实修行法、「解」(a)瑜伽道(b)瑜伽、「西」(a) *rnal 'byor gyi lam* (瑜伽道) (b) *rnal 'byor* (瑜伽) が対応しているが、「深」(b)如实行法は対応の語句はない。

(3) [深] (a) 弥勒、此法門名為如実修行了義修多羅 (b) 汝當奉持。  
(六八〇a 11~13)

[解] (a) 善男子、此名瑜伽了義之教。(b) 於此瑜伽了義之教、汝當奉持。(七〇三a 29~b 1)

[西] (a) *byams pa hdi ni rnal hbyor nes pahī don bstan pa yin te* / (b) *rnal hbyor nes pahī don bstan pa shes bya bar zun cig* / (19b 4~5)

この部分の語句の対応は、[深] (a) 如実修行 (b) [なご]、[解] (a) 瑜伽 (b) 瑜伽、[西] (a) *rnal hbyor* (瑜伽) (b) *rnal hbyor* (瑜伽) となつてゐる。

(4) [深] 説は如実修行了義修多羅時 (六八〇a 13)

[解] 説此瑜伽了義教時 (七〇三b 1~2)

[西] / *rnal hbyor nes pahī don bstan pa hdi bpad pa na* (19b 5)

ここも前の(3)と同じく、[深] 如実修行、[解] 瑜伽、[西] *rnal hbyor* (瑜伽) となつてゐる。

(5) [深] 七万五千菩薩得大乘如実修行觀成就。(六八〇a 16~17)

[解] 七十五千菩薩獲得广大瑜伽作意。(七〇三b 5~6)

[西] / *byañ chub sems dpah bduñ khri ha ston gis ni rnal hbyor chen poñi yid la byed pa thob par gyur to* / (19b 6~7)

ここにおいても、[深] 如実修行、[解] 瑜伽、[西] *rnal hbyor* (瑜伽) の対応は明らかである。

(1) *tsnul bshin du shugs pa* (如理行) に関するもの

[深] 善清淨慧、汝当底知、彼諸菩薩、不名正念、如実修行、是名邪念。(六六八a 1~11)

[解] 当知、一切非如理行、不如正理。(六九一a 13~四) [節] 当知、是人不如理行。(七一三a 13)

[西] *khvod kysis hdi liar tsnul bshin ma yin par shugs pa yin gyi* / *tsnul bshin du shugs pa ma yin par rig par byaho* / (6a 1~2)

この部分の語句の対応は、[深] 不名正念如実修行、[解] 非如理行、[節] 不如理行、[西] *tsnul bshin ma yin par shugs pa* (如理行はなごを行使す) とあるが、この逆は、[深] 正念如実修行、[解] 如理行、[節] 如理行、[西] *tsnul bshin du shugs pa* (如理行) となるであろう。また、右と同じような語句が別の箇所にもあり、そこでは、

[深] 何者是正念修行法、何者是邪念修行法。(六六七b 1~11)

[解] 誰如理行、誰不如理。(六九〇b 9)

[節] 何者正行、何者邪行。(七一三a 8~9)

[西] *gañ ni tsnul bshin du shugs pa lags* / *gañ ni tsnul bshin du ma lags par shugs pa lags* (5b 2)

とあって、〔深〕正念修行法、〔解〕如理行、〔節〕正行、〔西〕*tsul bshin du shugs pa* (如理行) が対応しているが、〔深〕に「如実」がないことに注意すべきであろう。また、他の箇所には、

〔深〕彼癡非<sub>二</sub>正念<sub>一</sub> (六六八 a 一六)

〔解〕彼非<sub>二</sub>如理行<sub>一</sub> (六九一 b 七)

〔節〕説行、<sub>三</sub>如理<sub>一</sub> (七一三 c 一〇)

〔西〕/ *de dag tsul bshin ma yin shugs pa yin* / (6b 6)

とあって、〔深〕非正念、〔解〕非如理行、〔節〕行不如理、〔西〕*tsul bshin ma yin shugs pa* (如理ではないことを行する) が対応しているが、ここでは特に、〔深〕は「正念」だけであって、「修行」や「如実修行」がつかうらないことに注意すべきであろう。

(三) *ges bshin du spyod par* (正知行) に関するもの

〔深〕於<sub>二</sub>微細行中<sub>一</sub>而猶不<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>如実修行<sub>一</sub> (六八〇 b 三〜四)

〔解〕而未<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>於<sub>二</sub>微細毀犯誤現行中<sub>一</sub>正知而行<sub>一</sub> (七〇三 b 二六〜

c 1)

〔相〕而未<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>於<sub>二</sub>微細犯<sub>一</sub>戒行<sub>一</sub>正知住<sub>一</sub> (七一四 c 二五〜二六)

〔西〕*yan lmu ba phra mohi hkhul pa kun du hbyun ba dag*

*la ges bshin du spyod par mi nus pas* (19c 6)

ここでは、〔深〕如実修行、〔解〕正知而行、〔相〕正知住、

〔西〕*ges bshin du spyod par* (正知に行すること) が対応して

『深密解脱経』の「如実修行」について (島津)

いる。

(四) *man du gnas par bya ba* (多住) に関するもの

〔深〕雖<sub>レ</sub>滿<sub>二</sub>彼分<sub>一</sub>如菩提分<sub>二</sub>而猶不<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>如実修行<sub>一</sub> (六八〇 b 八

〜九)

〔解〕而未<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>令<sub>二</sub>隨<sub>二</sub>所<sub>一</sub>獲得菩提分法<sub>一</sub>多修習住<sub>一</sub> (七〇三 c 七

〜八)

〔相〕而未<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>如<sub>レ</sub>所得菩提分法<sub>一</sub>数修習<sub>一</sub> (七一五 a 三〜四)

〔西〕*yan byan chub kyi phyogs dan hthun pathi chos ji lhar thob pa dag gis de la man du gnas par bya ba… (中略) … mi nus pas* (19d 1〜2)

ここでは、〔深〕如実修行、〔解〕多修習住、〔相〕数数修習、〔西〕*man du gnas par bya ba* (多く住せられること) となっているが、他の箇所では、〔深〕多修 (六八〇 b 一八)、〔解〕多住 (七〇三 c 一七)、〔相〕多住 (七一五 a 九)、〔西〕*man du gnas par* (多く住する) (19d 6) となっているところもあるから注意すべきである。

(五) *bsgrub pa* (行) や *sgrub pa* (行) に関するもの

(1) 〔深〕次有<sub>二</sub>十種法行<sub>一</sub>、如実修行、聞思修慧智<sub>一</sub>故、(六八一 c 六〜七)

〔解〕二者、次於<sub>二</sub>十種法行<sub>一</sub>、以<sub>二</sub>聞思修所成妙智<sub>一</sub>精進修行、

(七〇五 a 二四〜二五)

〔相〕於<sub>二</sub>彼行<sub>一</sub>十法行聞思修慧<sub>一</sub> (七一六 a 二〜三)

[西] *dehi hog tu chos spyad pa bou po dag gis thos pa dan / bsams pa dan bsgoms pa las byun hahi ges rab bsgrub pa dan / (20e 5)*

ここでは、「深」が実修行、「解」精進修行、「相」行、「西」*bsgrub pa* (行) が対応している。

② [深] (a) 若有、人能依於彼道、如実修行、…… (中略) …… (b) 若人不能信於彼道、又復不能如実修行、謗我法、誦我法、(六八七c二七～六八八a一)

[解] (a) 若有能於此道、此行、正修行者、…… (中略) …… (b) 若有衆生於此道、行、違背輕毀、(七一a二六～二八)

[相] (a) 謂於彼道、彼迹、隨、所、說、行、…… (中略) …… (b) 若違背道、迹、譏訶毀謗、(七二〇a二八～b一)

[西] (a) *gan dag lam de dan / sgrub pa de sgrub par byed pa de dag ni*…… (中略) …… (b) *gan dag lam de dan / sgrub pa dehi phyir spon shin mi shan pa na brjod la / (26b 3～4)*

ここでは、「深」(a) 道 (b) 如実修行、[解] (a) 道 (b) 行 (c) 正修行、[相] (a) 道 (b) 迹 (c) 隨所說行、[西] (a) 道 (b) 行 (c) *sgrub pa* (行) (d) *sgrub par byed pa* (行) (e) すがが対応した。また、「深」(b) 道 (b) 如実修行、[解] (b) 道 (b) 行、[相] (b) 道 (b) 迹、[西] (b) 道 (b) 行 (c) *sgrub pa* (行) が対応しているが、各訳々々(②)については

(c) の対応関係が明確であるが、(a) については「深」の (b) (c) の如実修行の対応関係が明確ではなう。即ち、この「深」の如実修行は、他の訳の (b) に対応するの、(c) に対応するのかが問題になる。もし他の訳の (b) に対応すれば、「依於彼道、如実修行」となり、(c) に対応すれば、「依於彼道、如実修行」となるであろう。あるいは、ここは (b) と (c) の意味を含めていると見ることができるともいれない。

(六) *chos kyi rjes su hñun pahi chos sgrub pa* (法隨法行) に関するもの

[深] 無量差別觀法那、奢摩他毘婆舍那、隨、聞、如、実、修、行、成、就。(六八三b一三～一四)

[解] 無量總法為所緣故、及毘鉢舍那故、能善成辦法隨法行。(七〇六c一九～二〇)

[相] 起無量下地法緣觀、法次法向。(七一七a一七～一八)

[西] *hdres pa tshad med pahi chos la dmigs pahi lhag mthon gis chos kyi rjes su hñun pahi chos sgrub pa yan dag par sgrub par byed pa (22b 7～8)*

ここでは、「深」隨聞如実修行、[解] 法隨法行、[相] 法次法向、[西] *chos kyi rjes su hñun pahi chos sgrub pa* (法隨法行) が対応している。

(七) *bsgom pahi rnam par sbyor bar* (修習の加行) に関するもの

〔深〕而彼衆生不能於中如、実修行、(六七二b三)

〔解〕然猶未能以其修行、發起加行、(六九五c八～九)

〔西〕 *bsgom pahi nam par sbyor bar mi nus so* / (11b 3)

ここでは〔深〕如実修行、〔解〕以其修相発起加行、〔西〕

*bsgom pahi nam par sbyor bar* (修習の加行) が対応して  
くると思われる。

〔西〕 *cin tu bsgoms pahi nes par hbyun ba* (善修の出離) に

関する。

〔深〕如、実修行、十地波羅蜜、轉身成就、得妙法身、是名諸仏如

来法身相。(六八五a二二～二四)

〔解〕善男子、若於諸地波羅蜜多善修出離、転依成満、是名如来  
来法身之相。(七〇八b一三～一五)

〔相〕地波羅蜜善修習乘、身転集成、文殊師利、是如来法身相。

(七一八a二七～b一)

〔西〕 *hjam dpal de bshin gregs pa namus kyi chos kyi skuhi  
mshan hid ni sa dan pha rol tu phyin pa cin tu bsgoms pahi  
nes par hbyun bas gnas gyur pa yan dag par grub pa yin no /*  
(23d 3～4)

ここでは〔深〕如実修行、〔解〕善修出離、〔相〕善修習乘、

〔西〕 *cin tu bsgoms pahi nes par hbyun ba* (善修の出離)

が対応している。

〔九〕その他(語句の対応が明確でないもの)

『深密解脱経』の「如実修行」にこうして(島津)

(1)〔深〕観世自在、我說諸菩薩摩訶薩檀波羅蜜七種清淨、如実修  
行、何等為七。所謂依悲心施清淨、施清淨即(六八三a五  
～八)

〔解〕謂諸菩薩如我所說七種布施清淨之相隨順修行。一者、  
由施物清淨、行清淨施。(七〇六b一六～一八)

〔相〕謂菩薩於我所說七種淨施受持修行。施物清淨、清淨施、  
(七一六c三三～三四)

〔西〕 *hdi la ste sbyin pa nam par dag pa nam pa bdun  
po sbyin par bya bahi chos po nam par dag pas sbyin pa  
nam par dag pa sbyin par byed pa dan* (21e 8～22a 1)

ここでは、〔深〕如実修行、〔解〕隨順修行、〔相〕受持修行  
は対応していると思われるが、〔西〕は明確ではない。

(2)〔深〕観世自在、菩薩親近善知識故、聽聞正法、如実思惟而  
能隨順、如実修行、転彼薄心、增長善力、於彼真如法界之中、  
得増上力。(六八二a七～九)

〔解〕若諸菩薩親近善士、聽聞正法、如理作意、為因縁故、  
転劣意樂、成勝意樂、亦能獲得上界勝解。(七〇五b二四～  
二六)

〔相〕親近善知識、聽聞善法、内正思惟、転劣稀望、得力、  
稀望殊勝上界。(七一六e三三～三四)

〔西〕 / *des skyes bu dam pa yan dag par bstan pa dan dam  
pahi chos mñan pa la brten nas tshul bshin yid la byed pa*

thob cih lhag pahi bsaam pa stobs chun ba nid nam par  
bzlog nas khams gya nom pa las bsaam pahi stobs thob par  
hgyur ba (21b 1~2)

この部分の「深」如実修行は、他の訳の中の対応語句が明確ではな<sup>ら</sup>ずと思われる。

- (3)【深】依<sup>二</sup>廻向力<sup>一</sup>一切生处得<sup>二</sup>善果報<sup>一</sup>、依<sup>二</sup>彼如<sup>一</sup>、实<sup>二</sup>修行<sup>一</sup>、諸波羅蜜不<sup>レ</sup>尽、乃至得<sup>二</sup>阿耨多羅三藐三菩提<sup>一</sup>故。(六八三 b 二二~二四)

【解】正廻向故、一切生处波羅蜜多、及彼可愛諸果異熟皆得<sup>二</sup>無尽<sup>一</sup>、乃至<sup>二</sup>無上正等菩提<sup>一</sup>。(七〇六 c 二九~七〇七 a 一)

【相】廻向者、於<sup>二</sup>一切生常得<sup>二</sup>善受<sup>一</sup>果報、無<sup>レ</sup>尽<sup>二</sup>波羅蜜<sup>一</sup>、乃至<sup>二</sup>阿耨多羅三藐三菩提<sup>一</sup>。(七一七 a 二二~二五)

【西】yons su bsno ba nid kyis ni bla na med pa yan dag  
par rdsogs pahi byan chub kyi bar du tshu rabs thams cad  
du nam par smin pahi hbras bu rdod pa dai bcas pahi  
pha rol tu phyin pa mi zad pa nid hthob par byed do /  
(22c 3~4)

この部分の「深」にも、如実修行が見られるが、他の訳の中には、この句と対応する語句は明瞭ではないと思われる。

(H)「如実修行」の省略・簡約形

次に、「行」「実行」「如実行」という「如実修行」を省略もしくは簡約したと思われる形が見られるので、付記してお

きた。

- (1)【深】如<sup>二</sup>実行者<sup>一</sup>(六六七 c 一八)、『解』修<sup>二</sup>觀行人<sup>一</sup>(六九〇 c 二九)、『節』修<sup>二</sup>觀行人<sup>一</sup>(七一一 b 一五)、『西』nal hbyor pa (5 e 3)

- (2)【深】如<sup>二</sup>実行者<sup>一</sup>(六六七 c 二四)、『解』修<sup>二</sup>觀行人<sup>一</sup>者(六九一 a 六)、『節』觀行人(七一一 b 一九)、『西』nal hbyor pa (5 e 6)

- (3)【深】此説法行中、若人不放逸(六七九 c 二九)

【解】於<sup>二</sup>三法假立瑜伽中<sup>一</sup>、若行<sup>二</sup>放逸<sup>一</sup>失<sup>二</sup>大義<sup>一</sup>(七〇三 a 一七)、『西』 / chos rnamsglags pa nam gshag sai yin pa /

/ de ni nral hbyor bag yod don chen yin (19a 7)

- (4)【深】彼離<sup>二</sup>如<sup>一</sup>、実行<sup>一</sup>(六八〇 a 三)、『解』慈氏<sup>レ</sup>彼去<sup>二</sup>瑜伽<sup>一</sup>、遠(七〇三 a 一〇)、『西』 byams pa de dag nral hbyor hdi las ni / (19a 8)

- (5)【深】修行此<sup>二</sup>実行<sup>一</sup>(六八〇 a 九)、『解』於<sup>二</sup>此瑜伽<sup>一</sup>、汝當<sup>二</sup>學<sup>一</sup>(七〇三 a 一六)、『西』 / nral hbyor hdi la rab tu brison par gysis / (19b 3)

右の中、(3)(4)(5)は、偈頌のため簡約化したものである。

以上において、「深」の「如実修行」について、他の諸訳と比較して来たのであるが、原語の問題は別の機会に譲るとして、瑜伽 yoga など、各種の語句の訳語として好んで用いられていることがわかるし、他の諸訳との比較によって、その意味内容も理解されるであろう。(同朋大学教授)